

修士論文（要旨）

2013年1月

日本と中国の企業の社会的責任に関する考察  
—コスモ石油・中国石油の比較研究—

指導 牧田東一 教授

国際学研究科

国際協力専攻

211J1054

沈冰

## 目次

はじめに

第1章 CSR の理論的アプローチ	4
第1節 CSR の定義	
第2節 CSR の基本分野	
第3節 CSR の取り組み理由	
第2章 日本企業と中国企業の CSR の現状	6
第1節 CSR 調査項目の日本特色	
第2節 日本企業のさまざまな企業不祥事が起きる原因と予防策	
第3節 中国における日系企業の社会貢献活動に関する調査	
第4節 中国企業 CSR の現状	
第3章 中国石油とコスモ石油の概要	11
第1節 中国石油の概要	
第2節 コスモ石油の概要	
第4章 中国石油とコスモ石油の CSR の比較考察	15
第1節 全体比較	
第2節 石油・天然ガスの持続的供給 類似項目と相違項目	
第3節 気候変動への対応	
第4節 社員福祉	
第5節 社会貢献	
おわりに 持続可能な社会と CSR を期待	40
参考文献	i,ii

## はじめに

### 問題意識

経済の発展に従って、情報化やグローバル化の急速な進展が、社会の変化を呼び起こしている。経済活動は地球規模で伸びている。国連の提唱した企業に関する国際的なイニシアチブであるグローバルコンパクトに参加する企業の数が増加している。今日においては、経済活動を行っている主な主体は企業である。企業は社会活動の主体にして日に日に重要な効果を発揮し、社会の中で活躍している。企業を構成しているのは人である。また企業の製品を買い、サービスを受ける消費者も人だということを考えれば、企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility: CSR) が注目されている。CSR に関する記事が新聞をにぎわせ、企業経営者の話の中にも CSR が頻繁に登場するようになってきている。企業は利潤追求を目的とするものであるため、企業の事業活動におけるさまざまなマイナスの側面が指摘されており、地球温暖化対策や食品の安全性など、ビジネスのさまざまな場面で、たとえば、環境基準の低い国において操業活動を行い、有害廃棄物などを放置していたとして、公害輸出の問題が指摘されている。公害輸出の事例は裁判にもなった [芦田他 2008:160]。また、最近中国では、食品の安全性に関する例として、ブタにはクレブテロールが入っており、牛肉も羊肉も有害添加物入り、結局企業に関する商品の不買運動が行われたり、企業イメージの低下という損害を被ったりすることもある。これは、長期的にみれば、企業の利益が減少することにもつながる。ビジネスという観点から、企業が社会的責任を果たす必要が生じているのである。

CSR の源流ともいえるヨーロッパと、メセナ活動やフィランソロピーの発達しているアメリカを中心に、CSR の現状をみたくうえて、一部アジア・太平洋地域の状況も入れて、特に日本と中国について詳しく考察していきたい。CSR とは企業が社会問題と環境問題を、従来の財務問題を同じように、企業の責務として利害関係者とのやり取りのなかに自主的にと見込むこと、とされる [岡本 2004:80]。このようにヨーロッパの CSR の背景には、失業問題やグローバル企業の社会問題に端を発している。ヨーロッパの最大の社会問題とは、国によっては 30%とも 40%ともいわれる高率に悩む若者の失業問題である [岡本 2004:82]。

一方でアジア地域の最先進国である日本は、やはり他の先進国諸国と同様に、高度経済成長と工業化による公害問題、労働・雇用問題を経験している。そのため、CSR についてはすでに欧米と同水準の取り組みがなされている。大企業による環境報告書・CSR 報告書の作成も、ほぼ浸透しているといつてよい。特に、日本は高度経済成長期の 1960 年代、70 年代に悲惨な環境汚染を体験した結果、公害や環境への対応が世界的に見てもっとも進んでいる国となったといえる。アジア地域全体としては、日本をフロントランナーとした資本主義経済の発展段階にあり、工業化・経済活性化のなかで、公害防止面などの環境問題に重点が置かれる傾向にある。今後、世界のなかで、アジアを代表する先進国として、日本は CSR の進化の方向性を真剣な態度で考えていかなければならない [岡本 2004:81]。

中国は、急速に経済成長をしつつある。中国企業は経済のグローバル化の試練を受けてきて

おり、国営企業の力は日増しに強大になっている。中国企業は民間組織として価値ある製品・システムを社会に提供するとともに、地域貢献や環境保全等“CSR”が求める活動の多くの分野において積極的に企業責任を果たし、地域との共存に重きを置いてくるべきである。そのため、企業で社会責任を引き受けることはすでに妨げてはいけない国際的趨勢になってきた。しかし、ここ数年来、中国の企業には企業社会責任事件が絶えず生じている。CSRは中国において発展の初期段階にあるため、中国のCSRはまだいろいろな不足がある。中国の現状と関連し、欧米諸国のCSRは最先端だが、直接まねをすることは中国の場合は不相応と考える。やはり、中国のCSRのモデルとしては、アジア地域の最先進国である日本の方が、適切である。

そこで、筆者は中国の企業社会責任の現状に基づき、問題が発生する原因を分析したいと思う。また、日本企業はCSRをどのように実施しているか、それも研究内容の一つである。それに、中国国営企業はどのようなCSRを実施し、社会活動の主体に効果を発揮しているのだろうか。また、どのような課題を抱えているのだろうか。これらが、次に研究すべき課題である。そのうえで、日本の大手企業のCSRの発展の現状から、何を参考にし、中国企業のCSRの長所を伸ばし、短所を改めることを考えたい。新興国では、経済発展にともなって環境問題や社会問題の悪化が注目されている。日本企業が過去の経験から得た教訓を活かして見本となることは、現地からの信頼が得られるうえ、尊敬を集めることにつながるであろう。さらに、企業の社会的責任のレベルを引き上げる方法についても探求したいと思う。これは企業の社会的責任の問題だけではなく、同時にグローバル化した世界において中国企業が発展するための要求でもある。

## 参考文献（アイウエオ順）

### 日本語文献

- 芦田健太郎、薬師寺公夫、坂元茂樹（2008）『ブリッジブックス国際人権法』信山出版  
インターリスク総研（2004）『実践 CSR—持続可能な発展に向けて』経済法令研究会  
海野みづえ（2009）『企業の社会的責任（CSR）の基本がよくわかる本』中経出版  
海野みづえ・細田悦弘（2011）『企業ブランディング』産業編集センター  
榎本徹（2005）『CSR 活用ガイド—問われ始めた企業の社会的責任』オーム社  
江橋崇（2009）『企業の社会的責任経営—CSR とグローバル・コンパクトの可能性』法政大学出版局  
岡本亨二（2004）『CSR 入門—「企業の社会的責任」とは何か』日本経済新聞社  
王名（2007）『中国のNPO—いま、社会改革の扉が開く』第一書林出版

- 清川佑二（2007）『企業改革へのCSR 実践論』日本BP企画  
国廣正（2010）『それでも企業不祥事が起こる理由』日本経済新聞出版  
国際交流基金（2008）「中国における日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書」  
谷本寛治（2006）『CSR 経営』中央経済社  
谷本寛治（2006）『CSR 企業と社会を考える』NTT出版  
日本電気（株）（2004）『CSR 実践的経営の進め方』日科技連  
萩原愛（2005）「企業の社会的責任（CSR）—背景と取り組み」Issue Brief No.476 国立国会図書館  
横田洋三（2008）『国際人権入門』法律文化社  
横田洋三（2006）『新国際機構論 上、下』国際書院

### 中国語文献

- 陳英（2009）『企業社会的責任—理論与实践』经济管理出版社

### 企業CSR 報告書

- 中国石油天然気グループ会社（2012）「中国石油天然気グループ会社企業社会責任報告 2011」  
コスモ石油（2011）「コスモ石油グループコーポレートレポート2010」

### 参考HP リスト

#### 中国石油 HP

[<http://www.csr-china.net/templates/node/index.aspx?nodeid=75f12b28-5802-4353-85a1-5f0f1439f254&page=contentpage&contentid=a44dab4c-c606-4c29-855f-1410a0cf5d06>]

#### 大慶石油HP

[<http://dqyt.cnpc.com.cn/News/dq/dqyt/shzr/index.shtml>]

[<http://www.cnpc.com.cn/cn/gywm/jtjj/>]

i

BaiduHP [<http://baike.baidu.com/view/43877.htm>]

AFPBB News(2012/6/7)「恐怖の種-中国に満ちあふれる有害物質(1)」

[[http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/environment/2881989/9041006?ctm\\_campaign=txt\\_topics](http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/environment/2881989/9041006?ctm_campaign=txt_topics)]

コスモ石油 HP

[<http://www.cosmo-oil.co.jp/company/overview.html>]

[<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/index.html>]

[[http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/gl\\_warming.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/environment/gl_warming.html)]

[<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/index.html>]

[<http://wise.eek.jp/matusita.php>]

[<http://baike.soso.com/v1825960.htm>]

社団法人日本経済連合会 HP (社)日本経済団体連合会(2010)「企業行動憲章」

[<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/cgcb/charter.html>]

ウィキペディア HP

[<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%83%A2%E7%9F%B3%E6%B2%B9>]